

# A—19 体重を指標としての特殊食品による発育 状況に就いて

早大教育 前川 静恵  
○伊藤秀三郎  
奥村 勝美

1. 特殊食品（手製パン粉、及びビタミン量を考慮に入れた小麦粉）の生体に及ぼす影響を、指標として体重を選び観察せんがためである。

2. 実験動物には性別を考慮しない廿日鼠を使用し、飼育籠の寸法は縦22cm、横75cm、高さ20cmで、横に5室に分けた。（金網製）

対照食品として固形飼料（鼠用）を使用し、それで一定期間を、次に特殊食品更に再び固形飼料と一定期間宛飼育し、体重の変化を観察した。

尚特殊食品期間中でも一群は固形飼料とした。

飼料はいずれも粉末状として、その重量は8gと決め、廿日鼠が自由に摂食出来る様に直径9.5cmの半円形の飼料容器に入れることにした。

尚、水は充分に入れたポリエチレン製の容器にて与えた。

3. 特殊食品の相異に依って、体重を指標とせる発育状況に相異を来たし、ビタミン含有量の多寡が、一役を演ずることを、著者等は認めた。